

片瀬のぞみだより

2017年11月号

家庭通信 2017 No.

11月主題聖句

「二人また三人がわたしの名によって
集まるところには、わたしもその中にいる。」

マタイによる福音書18章20節

牧師（設置者）磯部理一郎

片瀬のぞみ幼稚園の皆さん、運動会は、雨にも負けず、園児の皆さんのすばらしい成長の喜びの祭典となりました。とても感動的でした。今月は、皆で楽しみに待ち望んでいた、「片瀬のぞみ祭り」、また天の恵み豊かな収穫を感謝する「収穫感謝祭」を迎えます。こうした豊かな保育課題を果たせます幸いは、一重に保護者の皆さまの温かいご協力の賜物です。心から保護者の皆さまに、感謝御礼申し上げます。そして園児の皆さんのひとりひとりに。

暗誦聖句とキリスト教保育 一日々の保育の原点一

11月の暗誦聖句は、「二人また三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる。」（マタイによる福音書18章20節）という聖書のみことばです。少々この聖句の解説を加えますと、「集まる」というギリシャ語原典の用語は「シュンアゴー（共に集まる）」という動詞で、聖書の時代では、ユダヤ教の「教会堂」や「集会」（シナゴゲー）の語源です。神さまにお召しをいただき、選ばれた人々が、共に集う教会を指します。片瀬のぞみ幼稚園は、片瀬教会の附属幼稚園として設立されましたので、「教会幼稚園」と言ってもよいと思います。したがって聖書の観点から言いますと、園児の皆さんひとりひとりが、神さまから直接お召しいただき選ばれて、神さまの愛とみこころのもとで、守られ成長するよう、特別にお招きを受けた、「神の子」です。そればかりか、ただ神さまがこどもたちをお招きくださっただけでなく、こどもたちの集まる集団のただ中に、神さまも共におられ、こどもたちの成長に寄り添い、見守ってくださいます。こうした神さまの愛のまなざしとみことばのもとで、「教会幼稚園」の保育教育は、進められています。

こどもは「集団」の中で育つ 一集団の力一

聖書の人間観では、人は「神のかたち（似像）」（イメージ）として、また「男

（イッシュ）と女（イシャー）」に創造されました。天からは、神さまの愛と命の息吹に満たされ、地では隣り人の愛に支えられて、人としての自己実現は可能となります。「自分に合う助ける人」（パートナー）と出会うことで、初めて人は人として立ち、真の幸いを実現できるのです。独りぼっちでは決して自己完結はできないのです。いろいろな形で、支え・助けてくれる人と出会うことで、人は真の自己を実現することができるのです。集団の中での保育・教育は、育ちに必要な「支え助けてくれる人々」との出会いに導き、共に育つ場です。その意味で学校教育の主人公は、また教師も生徒も、終始、こども自身です。集団の中で、助け助けられつつ、共に学び、共に育ちます。西欧式学校教育の原点は地域の「シナゴゲー（教会）」にあったと言われます。西欧近代教育を導入した日本の学校教育制度は、集団の中で「人格の完成」をめざすことを目的と定めています。こどもたちは、神さまに愛されて導かれて、お互いに愛され助けられて、共に育つ場が学校です。

育ちの葛藤を共有する中で

集団生活を共に営むこどもたちの中で、悲喜こもごも、さまざまな混乱や課題が生じます。意見の対立も、時にケンカも起こります。育ちの課題となる主たる要素は、それぞれの発達の段階の差異と個性の多様性です。こどもたちは互いに自分がない多様な発達事情や個性と衝撃的に出会うことで、互いに育ちの葛藤を経験しますが、同時にまた新しい豊かなコミュニケーションを構築することで、それぞれが助け助けられ、益々、それぞれの発達も個性も豊かに美しく磨かれ光り輝きます。3、4、5歳児それぞれに異年齢クラスで、発達年齢に相応しい「社会的コミュニケーション構造」を構築し共有し合い、より豊かな育ちを互いに担保し合っています。5歳児のあそびは、驚くほどスピード感に溢れ、ダイナミックな展開力に満ちています。そのために駆使されるコミュニケーション形態は、実に豊かで多様です。あそびを含めて、こうした生活のダイナミックな展開力とコミュニケーション力を共有する5歳児クラスと、4歳児クラスまた3歳児クラスでは、質的に異なります。成長と共に、こどもたちは、集団の中で経験する葛藤をめぐる、その育ちを日々ステージ・アップしています。

豊かなこころのキャッチボール

この育ちの集団（シユナゴゲー）に対して、聖書は「インマヌエル」（「神は我々と共におられる」マタイによる福音書1章）と宣言しました。皆で助け・助けられるひとりひとりの育ちの中に、神さまは常に共におられ、寄り添ってみわざを行い、育ちを支え守り抜く、という神の約束です。

ひとりひとりの内に、神さまはお住まいくださり、育ちを支えてくださいます。こどもたちは驚くほど純粋に、神に祈ることができます。共に神に祈り、今はできなくても、いつかきっと、助け合いながら力をもらい、困難なこともできるようにしてくださることを知っています。共に希望の心で、お互いを見つめ、時に忍耐して待ち、根気よく助け合います。このようにこどもたちは日々集団の中で「こころのキャッチボール」を豊かに共有し、共同の育ちを見事に実現しています。